

年間第三主日 2020.1.26

弟子の召命

マタイ4章12-23節

イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

「ゼブルンの地とナフタリの地、／湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、／異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、／死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」

そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。

イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた。

説教

宣教開始とアンデレとシモン（ペテロ）、ゼベダイの子ヤコブとヨハネがイエスの弟子になった様子を朗読しました。しかし、彼らがイエスの弟子になった理由が読んでみてもよくわかりません。

マルコ福音書（1:16-20）にはいま朗読したマタイと同じことが書いてありま

す。ルカ（5:1-11）は弟子になった理由としてイエスのことばに従って半信半疑に網を打ったら大漁になったという物語が弟子になった理由？として説明されています。しかしヨハネ（21:1-14）ではルカの大漁の奇跡は福音書の最後に、復活したイエスの出現のエピソードとして紹介されています。ヨハネ福音書（1:35-51）の弟子取り物語はアンデレ（ペテロのお兄さん）はバプテスマのヨハネの元弟子だったと語られています。読めば読むほど混乱してきます。いったいほんとうのところはどうなっていたのでしょうか。

実のところ聖書は読んでもふつうの意味でいう「理解」はできません。わからないということがわかる、という理解ができるだけです。じゃあ、書いてあることの裏になにかあるんだろう、という一歩すすんだような考え方もできます。でも真理のことばに裏も表もありません。

獄中のヨハネが弟子たちを送り、あなたはメシアですかと質問したとき、イエスはこういいました。

わたしにつまずかない人は幸いである。マタイ 11:6

また惜別の時、トマスの質問に答えてこういいました。

わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。ヨハネ 14:6

実のところ、わたしもなんで信仰の決断（おおげさにいえばイエスの弟子になる）をしたのかことばでうまく説明できません。信者になりたてのころ、どうして受洗したのだ？とよく聞かれました。あれこれ説明してもなかなか納得してもらえず、あるとき親しい友が急逝したのでといたら、わけ知り顔でおおきくうなずかれたことを憶えています。ようやく尋問がおわるのかとおもいホッとした反面、とても嫌な感じがしました。

キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためです。（一コリ 1:17）

福音は「言葉の知恵」によらずに告げ知らせるものなのだとパウロはいつて

います。

ペテロたちはキリストに出会ったので弟子になりました。パウロ流に言えば「言葉の知恵」によらず弟子になったのです。やがて彼らはわたしたちと同じようにイエスにつまずきました。彼らはなんとつまずいてもイエスに従いました。

今の私たちに、イエスは何を望まれるでしょう。私たちそれぞれがいまいる場所で、時のしるしを見、神の呼びかけを聞いてそれに応えていく恵みを、今日も祈り求めたいと思います。
